

トヨタ自動車におけるNPOとの協働プロジェクト



瀬川 秀雄 (せがわ ひでお)
トヨタ自動車株式会社
海外渉外部 担当課長

ABIC設立5周年おめでとうございます。時代を先取りしたこの活動に関わられた皆様に対し心より敬意を表したいと思います。

トヨタ自動車では、本2005年4月にこれまでの社会貢献活動基本理念・基本方針を見直し、より時代の要請に合ったものに改定いたしました。これに先立つ1月に、CSRの基本方針である「社会・地球の持続可能な発展への貢献」が策定されていたので、社会貢献の理念・方針は上位概念であるCSRの基本方針を踏まえて、関連する部署の了解を得つつ作成してきました（尚、CSR基本方針は名刺大に折りたためる形にして全社員が携行することを推奨されています）。

当社の基本理念・基本方針そのものは表1をご参照いただきたいと思います。基本方針の中には「トヨタはコミュニティやNPO・NGOなど社会の様々な活動主体と協働し、互いに目的と目標を共有しあうと共に、それぞれの長所を活かして社会貢献活動を推進します」と明確な姿勢を謳っています。

ここでは当社の行っている数多ある活動の中

から、代表的な4点をご紹介します。これらは資金的な支援もさることながら、文字通り関係する社員が靴底を減らし、汗を流し、時には涙も流し（?）、時には苦言を呈し、また、時には口角泡を飛ばして議論をしてきたもので、筆者自身はこれらのほんの一部にしか関わりをもってはいませんが、担当者の秘めたる話を総括してみると、各種各様の苦勞（一面楽しい苦勞と言えなくもありませんが…）を体験してきていることを感じます。

① トヨタ白川郷自然学校

その設立目的には、「自然の叡智に敬意を払い、伝統文化に新技術を加味した環境教育を地球と人類の未来の為に世に広め、これからの人類のあり方と地球のあり方を探り、新たな文化を創造することを目的に設立」とあり、地元の白川村、各種自然環境関係のNGO・NPO、ボーイ／ガールスカウト等に当社が加わり、NPO法人白川郷自然共生フォーラムを立ち上げ運営されています。

大きくは以下のプログラム／プロジェクトに分かれています。

- ア）自然体験プログラム（よみがえるギフチョウ）
- イ）伝統文化プログラム（茅葺き屋根と土地作り）
- ウ）環境技術プログラム（燃料電池と森づくり）
- エ）四季のプログラム

（春12本、夏10本、秋12本、冬10本）

- オ）共生プロジェクト（6種）

残念ながら、筆者は上記のどれにも未参加ですが、パソコン画像の中での体験を全てと誤解

しがちな世代の都会・田舎の子供達を問わず、何よりも“面白い”“実物に触れての体験”をすることができ、お父さん、お母さん、young-at-heartのおじいさん、おばあさんにも最適なプログラムが用意されています。是非とも、一度とは言わずに二度三度と訪れ、皆様の心の中に確かな自然の刻印を印されることをお勧めいたします。

以上、あまりにも宣伝臭くなってしまいましたが、トヨタは当活動を立ち上げる前の企画構想段階、折衝等の準備段階からはもとより、活動開始後の運営にいたるまで、関係する地元の皆様の衆知を集め、議論し、合意を得ながらあるべき姿を模索しつつ進めてまいりました。

② 日中「21世紀中国首都圏環境緑化モデル拠点」

中国各地での砂漠化を食い止め、かつて存在した豊かな森林の再生を目標に、中国科学院、河北省人民政府林業局、日本のNPO（地球緑化センター）と当社で行っている植林プロジェクトです。当社では北京の北方180kmにある河北省寧寧満族自治県の一村落で2001年4月から実施しています。

もとより、年間降水量が350～450mmの半乾燥地である上に過放牧、過伐採により砂漠化が進行した所に、当社ではバイオ・緑化事業部の



朝の森のウォーキングガイド

技術的ノウハウを投下し、より適材適地の樹種を選抜した結果、高活着率・高生存率を維持し、第一期の3年間で1,500ha.の植林実績を得ています。

次の第二期の3年間は、植林面積を増やす（+1,000ha.）ことはもとより、植林地での経済的基盤の向上の視点も加味して活動を継続し、その中には第一期で植林した山杏の管理、現金収入への道を広げる薬草栽培、過放牧による表面土砂の飛散を防止する為の乳牛モデル農家の設定、舎飼い品種の導入などがあります。また、エネルギー源の多様化の一つとして薪の伐採を防ぐメタンガス施設の建設等を行い、農民の現地定着—経済的自立の確立・改善—更なる農民の定着のサイクルが巧く回転してゆくべく、その仕組み作りに着手しています。これも首都圏の砂漠化は、自然気候環境的なものが主因ではあるものの、社会的経済的な要因もまた大きいとの認識からきています。

この事業は最初は慎重なスタートでしたが、3年間の着実な実績を背景に、自立的な循環で運営できる体制に早く移行すべく、また、失われた豊かな緑をこの地にもたらしべく関係者の皆で努力を継続してきています。



中国河北省緑化事業 植樹造林前(左)と植樹造林後(右)



京都の小学校でのダンサーによる授業

③ トヨタ・子どもとアーティストの出会い

当社がメセナ活動の一環として、2004年1月にNPO法人「芸術家と子どもたち」と連携して創設したプログラムです。テレビやビデオ、ラジオ、パソコンからではなく、アーティストとの直の出会いを通じて子どもの豊かな感性や価値観を育むことを目的に、ダンサーや現代アートのアーティスト達が学校や児童館に出向き、先生達と協力しながら音楽や体育、総合的な学習の時間等を活用して、ワークショップ型の授業を展開します。

開催地の方々と共に運営委員会を組織（例えば、地元の実行委員会、子どもとアーティストの出会い設立準備室、NPO法人芸術家と子どもたち、とトヨタ自動車広報部で構成）し、ワークショップ型の授業を2年間実施することにより、このような活動が広がる為の環境作りと人づくりを行いたいと考えています。

当面の目標としては、

- ア) 当活動に対する認知度の向上
- イ) 各地で学校や児童館とアーティストをコーディネートする人(組織・ネットワーク)の育成
- ウ) コーディネーター同士の緩やかなネットワークの形成

としています。

企画立案は、現地の実行委員会と「芸術家と子どもたち」、「子どもとアーティストの出会い設立準備室」、と当社の協働で行い、その地域に即したプログラムを作成します。

当社の担当者は、このようなコンセプトを関係する皆様に理解していただくことに初期のうちは“ある種のもどかしさ”を感じていましたが、最近は同種の活動があらこちらで増加してきたことと相まって手ごたえを感じるようになってきました。

④ 人道目的の地雷除去支援の会 (JAHDS)

NPOとしてのJAHDSは数年間の助走期間の後、1998年に設立されました。日本のNPOとしては初めて、国連、国際機関、NGO・NPO、被災国・地の人々と連携しながら、自らの手で地雷除去活動に取り組むことと併せて、被災国・地域の人々自身の手でも除去活動が効率よくできる為の技術移転も行っています。また、これらの活動の成果を世界中の人々に知ってもらうべく広報活動も併せて行い、本年愛知県で行われたEXPOにも展示ブースや模擬地雷原を設け、日本人には遠い存在である“地雷”という卑劣な“悪魔の兵器”について、高校生・大学生等の若い世代を中心に認識を高めてもらう努力に傾注しました。

JAHDSの活動には、当初から幅広い民間企業が、資金はもとより、貴重な技術・製品・輸送・ネットワークなどの分野で「プロフェッショナルなサービス」を提供して支援してきており、NPO・NGOと民間企業との協働モデルとして世界でも類を見ないと国連や国際機関が

社会貢献活動基本理念・基本方針

項目	社会貢献活動理念	社会貢献活動基本方針
目的	トヨタ自動車株式会社と関連子会社（以下トヨタ）は、豊かな社会の実現と、その持続的な発展のため、積極的に社会貢献活動を推進します	1-1：豊かな社会の実現と、その持続的な発展は、トヨタにとっても存続と成長の基盤となります。そのため、トヨタは事業活動を通じて、また事業活動を超えて、社会の一員としての様々な社会的責任を果たすと共に、持てる資源を有効に活用し積極的に社会貢献活動を推進いたします。 1-2：トヨタは、良き企業市民として、それぞれの地域が抱える社会的課題に目を向け、地域社会と協力しながらその解決に努めます。 1-3：トヨタは、グローバルに事業を行う企業の一つとして、グローバルな視点から持続可能な社会づくりに貢献します。
取組み姿勢	トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、持てる資源を有効に活用しながら、次の世代を担う人材の育成と社会的課題の解決に向けた社会貢献活動に取り組めます	2-1：トヨタは、豊かな社会の実現と、その持続的な発展のため、次の世代を担う人材の育成に努めると共に、様々な社会的課題に対し、その根本的な解決につながる社会貢献活動を目指します。 2-2：トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、事業活動を通じて培った技術やノウハウ、社員個人が保有する様々なスキルを活かした社会貢献プログラムの開発に努めます。 2-3：トヨタは、コミュニティやNPO・NGOなど社会の様々な活動主体と協働し、互いに目的と目標を共有しあうと共に、それぞれの長所を活かして社会貢献活動を推進します。
社員の参加	トヨタは、社員が一市民として主体的に行う社会貢献活動を支援します	3-1：トヨタは、社員による自発的な地域社会への参画やボランティア活動が、社会の利益となると共に、社員の成長、自己実現にもつながるものと考えます。 そのため、社員ボランティアを支援する諸制度の整備と、その実効的な運用により、社員のボランティア活動を支援します。
情報開示	トヨタは、社会貢献活動の成果を開示し、広く社会と共有し、社会の発展に寄与することを目指します	4-1：トヨタは、社会との積極的なコミュニケーションを通じて、社会貢献活動のノウハウや経験、成果を共有するとともに、豊かな社会の実現とその持続的な発展につながるよう、活動の継続的な改善に努めます。
グローバル展開	トヨタは、社会貢献活動基本方針をグローバルに共有し、各国・各地域の実情に合わせた社会貢献活動を展開します	5-1：トヨタは、豊かな社会の実現とその持続的な発展に貢献するという考え方のもと、事業を行うそれぞれの地域の社会的な要請を踏まえ、社会貢献活動を推進します。

ら、また、当該国の政府は勿論のこと、実施国の王室からも高い評価を得てきています。

現在JAHDSを各社の得意技で支援している会社は50社以上です。当社はスタート初期の時点から輸送用機器の面で協力してきていますが、同じ輸送用機器でも2輪の世界ナンバー1であるホンダも、機動性を生かした初期サーベイ用に小型のモーターサイクルや小型発電機等で“得意技”を活かした強力な支援を行っています。

JAHDSにおける企業の支援は、技術的、物的、金銭的な支援に留まらず、支援層の拡大に結びつく可能性の高い層を主要なターゲットと

する広報活動上の側面支援や、理事会の補完的機能を果たす下部の審議員会での慎重な事案審議や、より有効なアドバイス、ネットワークの提供等、ソフト面での支援も欠かすことはできない力となっています。

尚、当JAHDSにはABICを通して参加されている方も居られ貴重な戦力として活躍されていることも申し添えたいと思います。

最後は聊か小走り気味になってしまいましたが、概要のご理解の一助になれば幸いです。

ABICの今後の益々の発展を祈念いたします。